

## 地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 ( 3 4 )

団体名	(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	代表者名	(職名) 理事長	(氏名) 木田 薫
事業名	淡路島と神戸を結ぶ新たな拠点づくり3 ~生産者と消費者を結ぶ「つながりカフェ」~			

### < 事業実施実績 >

年月日 <small>定例は「月1回」 「毎○曜日」等 で記入</small>	場所	参加者  一般 (スタッフ)	活動内容  (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入)  講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
7月3日	オンライン	3 ( 2 )	講師先生とスタッフによる企画会議
9月6日	SODA島の学舎 (オンライン併用)	5 ( 4 )	淡路三原高校、洲本実業高校、南あわじ市、神戸市の担当者と登壇予定の先生方との打合せ会議
10月21日	京都大学環境学堂	4 ( 3 )	講師先生方との打ち合わせ会議
10月25日	南あわじ市広田地区 公民館	20 ( 3 )	淡路島でこれからの暮らしを考えるフォーラム 第1回「里海の恵みを考える」
10月26日	南あわじ社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 おのころの家	2 ( 2 )	おのころの家との打ち合わせ会議
11月23日	南あわじ市市地区 公民館	39 ( 7 )	淡路島でこれからの暮らしを考えるフォーラム 第2回「里山の恵みを生かすには」
12月13日	南あわじ市市地区 公民館	22 ( 5 )	淡路島でこれからの暮らしを考えるフォーラム 第3回「誰ひとり取り残さない社会をめざして」
1月17日	南あわじ市広田地区 公民館	44 ( 5 )	淡路島でこれからの暮らしを考えるフォーラム 第4回「共感が地球を救う」
2月10日	オンライン	2 ( 3 )	フォーラム全体のまとめと今後について

### < 効果と成果 >

異常気象や国際情勢を考えると将来、世界的な食糧危機が起こることは早くから予測されているが、日本では農、漁業者の後継者の立場の違いを超えて、命を育む「食」や「暮らし」について掘り下げて考えてみるフォーラムを実施した。

今年度のフォーラムでは、淡路島の漁業の現状、神戸市の里山の取組、そしてSODAの活動内容の紹介や社会的包摂についてなど様々な角度からテーマを設定したことで、漁業組合や、山林委員会、福祉関係の事業所、市役所など多くの団体の協力も得ながら、普段繋がらない分野の横断的なつながりも生まれた。特に高校の協力で「つながりマルシェ」を一緒に取り組んできた洲本実業高校の発表もあり参加者の年齢層も広がった。第4回では大前提でもある「消費者と生産者」との壁のみならず、お互いの立場の違いを理解し共に助け合っていける地域を築いていくためには、

本来人間のみが持っているはずの「共感力」を今一度、見直し取り戻していくことであると参加された皆さんで共有できた。

### <今後の展望>

「つながりカフェ」の参加者の感想を読んでいると、こちらが意図していた地域の課題をグローバルの視点からも捉えなおすということが届いたように感じている。ただし、こうした会に参加している人は普段から意識が高く、地域活動に関わっている方々がほとんどである。

その方々の意見としては、それぞれの分野での課題を考えたり、行動することはあっても今回のように分野を超えて横断的につながりを持つ機会は、ほとんど無いに等しいという。

行政の立場にしても、研究者の方々にとっても専門分野でのつながりや取り組みが当然ながら多く、今回のような場は貴重だというご意見をいただいた。

「つながりカフェ」は、神戸と淡路島という地域を横断することはもちろん、立場や分野を超えて繋がっていけるような役割を考えていきたいと思っている。また、それぞれの地域づくりに取り組んでいる方々を、幅広く繋いでいくことも視野に入れて活動を展開していきたい。

### <収支決算書>

#### (収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動NPO事業助成金	450,000
フォーラム事業収入等	63,000
合 計	513,000

#### (支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	謝金	235,000	235,000
	旅費交通費	88,924	88,924
	委託費	44,000	44,000
	その他(印刷費等)	64,342	64,342
	小 計	432,266	432,266
	間接経費(一般管理費)	80,734	17,734
	合 計	513,000	450,000